

OB会報

湘南サッカー一部OB会

第10号

七〇年のあゆみ

湘南サッカー一部OB会会長

天野 武 一

確認したので、ここに紹介したい。すなわち、

(1)まず岩淵二郎先生の写真(前掲書一八

二頁)

周知のとおり、わがOB会は「湘南サッカー、半世紀を経て」と題する文集を昭和五六年に発行し、これに岩淵二郎追悼記念の想いを込めたのであったが、ここにある写真は、紛れもなく岩淵先生が四十雀クラブの一人として戦った昭和三二年元旦の国立競技場におけるもので、往年のその人らしい壮さを鮮やかに示している。

(2)つぎに後藤基胤先生の写真(前掲書一四頁)

後藤先生については、さきの「湘南サッカー、半世紀を経て」において、一回生の不肖天野、二回生の石田貞一氏、三回生の中村正義氏の三名が期せずしてそれぞれの想い出を綴っているが、当時は東京高等師範学校を出られたばかりの若々しい先生で、初期の旧制湘

南中学で数学を教えておられた。特筆すべきことは、この先生こそが全関東蹴球団所属のサッカーの名選手であられたことで、大正一〇年(1921年)はじめて海外遠征した日本代表チームの一人として上海における極東大会に出場しておられ、そのときの写真がこれなのである。当時の生徒であった私も、軽快で小柄のこの先生がグラウンドに降りて發揮される美事なプレーに接しては大切に啓発されたものであった。

× × ×

ところで、これらの追憶は、私の独りよがりのものであってはなるまい。よって、一月一五日の蹴球祭当日、母校における各位の集りの場で見ていただくために現物を持参したいと思う。

終りに、くれぐれも願うことは、各位の御健勝御清栄である。昨年は、いささか天国行きがつづいた。皆さん、どうか大切に御自愛下さい。



寄稿

今年は残念なことに、現役時代で活躍され、また、OB会でも功績のあるOBの方々が亡くられました。ここに故人を偲んで寄せられた「思い出の記」を掲載させていただきます。

故 田村皓兄
を偲んで

十五回 大 埜 正 雄

六月三十日鎌倉を訪れ頼朝の墓に近い新築の田村の家にお伺いし、なくなった時お通夜にも葬儀にも参列出来なかったので、霊前にご冥福をお祈りし奥様お嬢様にお悔みの言葉を申し上げて参りました(大埜、田村と呼び合う間柄だったので文中敬称を省略させていただきます)

私は地方に勤務することが多く、十年半いた北海道からこちらに戻りながら身体の不調でサッカーの集りにも失礼していましたが、少しづつ、蹴り始めようと思いましたが、今年度の湘南蹴球祭には二十数年振りに出席し、全く久しぶりに貴君にお会い出来嬉しく思いました。なつかしいグラウンドにも立ち、あの頃キックの練習の相手になってくれた今も変らぬ頑丈なスタン

ドに椅子を並べ隣り合って試合をみながら昔にもどって楽しい一日を過しました。終って立派になった湘南通りを安保、内田、孫と一緒に駅まで歩きながら、年をとってお互いに無病息災というわけにはいなくなりましたが貴君も手術をしたり、しかも患君を先になくしたり苦労していることを安保から聞いた。

孫の写した蹴球祭の写真が出来たので自宅を新築中で仮に移っていた腰越のお家に送ったところ奥様からお礼の葉書をいたゞき蹴球祭の翌十六日の夕方転倒して大腿骨を骨折入院手術し、目下リハビリが始まっているがどうも元気がなくなり、リハビリもうまくいかずせめて家が完成するまでにはと祈るばかりですとあり、驚きもし心配にもなり、安保に様子を聞いたりしていましたが一日も早く回復するように祈っておりました。

蹴球祭の当日、奥本と一緒に帰ったあとで聞きましたが、その時貴君から当時の湘南蹴球部の数年次にわたる集まりをもったらどうかと提案があったということとで奥本が幹事役となりすゝめてくれ、四月二十一日ご兄弟とも湘南のチームで活躍された鎌倉八幡前の松岡、今の鶴ヶ岡会館でなつかしい当時の仲間が集って第一回の楽しい会を持つことが出来ました。貴君のすゝめで実現したので、貴君は入院中で残念ながら出席していただけだったが次回の集りの計画もたてられ、奥本始め幹事役も決まり着々と準備もすゝめられていたので今度は貴君も

全快して出席願えると思いい、お会い出来る日を楽しみにしております。

六月五日安保から連絡があり貴君がなくなつたことを知り悲しみに堪えなかつた。歴戦の友であり主将として輝かしい戦績を残した貴君を失ってしまった。刊行された「湘南サッカー半世紀を経て」の中にある昭和十五年のメンバーの写真ではF,Wで樋口、B,Kで市川、長島、松岡がなくなり、こゝに又田村に先立たれてしまった。今年に入り服部をなくし残るのは安保、内田、私だけになってしまった。しかも貴君の指示を受け第一回の集り、次回の準備に骨を折ってくれた一年下のG,K奥本も貴君のあとを追うように七月七日この世を去って悲しい限りである。

思い出を二、三書いておきます。

(一)愛称 ヌル
敵しいが親しみがあつた人柄で主将として統率力もすぐれていました。当時の中学の歴史の教科書に写真入りで出ていた中国清の太祖ヌルハチに風貌が似ていることからついたものと思ひますが、誰がつけたかはつきりしません。ヌルハチ即ちヌルであり貴君は大ヌル、患君は小ヌルと呼ばれたわけで、今もなお呼ばれています。(ましがってはいけなないと思ひ、百科事典をひいてみたがばつすいすると中国清の創建者で文武両道において清朝の基礎づくりに功があつたとある。まさにふさわしい)

(二)昭和十四年 田村主将率いるチームの戦績

①夏 甲子園全国大会

準決勝 京都聖峰中に抽せん負一一一

広島一中優勝

②秋 明治神宮大会

準決勝 大阪明星商業に延長戦で一点先取するも逆転負二一三

神戸一中優勝

③冬 関東中学蹴球選手権大会

決勝 豊島師範に敗る ○一一

翌十五年冬の大会で小埜(正雄) 主将の時初優勝

(三)田村家のお墓のこと

私事になって恐縮ですが、私は鎌倉の山の中の小さな寺に生れ、早く両親をなくしたので姉があとを継いでいたのですが、戦後田村から南方で戦死されたお父様の墓をつくって弔いたいからと頼まれ私の寺の墓地の一隅にお墓をたてられました。今ご両親もここに眠り田村も四十九日の法要の後こゝに葬られたと聞いておりますが、実は私が入ることになっている大埜家の墓とはまさに隣り合っているところですが、何れ地下でお会いしてサッカー談義ということになるわけですが、どうも良い男が多く先になつてしまい、私自身も疾患をもつ身なのでせめて「憎まれっ子世にはゞかる」で少しでも生きのびようと思つていて、折角貴君が考え発足した同年代の集りにもあつて何回かは出席したいので、地下での再会は今暫くお待ち願ひたいと思つています。

この追悼文は十一月二十三日旧制中学

選抜蹴球大会の日、グラウンドで安保に頼まれたもので適任でないと一度お断りしたが皆夫々役割があるということなのでお引き受けした次第ですが、当日湘南OBは会心の出来栄では付属中、五中に勝ち決勝で神戸一中を破り四年振り見事に優勝しました。たしか恵君はこの大会に出たことがあると思うし、駄文を陋するより見事優勝の報告をすれば貴君にも一番の供養になり兄弟で喜びあっていただけだと恥しく思う次第である。

大会終了後の懇親会の席で来年当番校となる湘南が挨拶を求められ、世話役の桑田が前回優勝の時に湘南高校は全国大会に出場したので今回もそれにならって期待しているし、来年の本大会も各校のご協力を得て立派にとり行いたいと決意を述べていましたから、湘南高、湘南OBの活躍の朗報をどうか待っていて貰いたい。

田村主将どうか安らかに眠り下さい。奥様始めご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ筆をおきます。

台掌

奥本武臣君

を悼む

十六回 戸澤 澄

今年の七夕、ヨゼフ・奥本君が逝去去された。彼は湘南サッカー黄金時代の

一翼を担う名プレイヤーであった。G.K.には華麗な動作を武器にしばしば超美技を演じるタイプと、派手ではないが堅実冷静で応変の判断力にすぐれたタイプとがある。前者の典型が故服部斐夫氏であり、後者のそれが奥本君であった。彼が「戸沢、いけッ」と叱咤する瞬間、弾かれたように私も発進して危うくピンチを脱する、呼吸がびつたりのそんなシーンをいくつも憶い出せる。

スポーツに於けるこのタイプはそのまま彼の社会人としての生き態でもあった。東工大から日立製作所の研究部門に入った奥本君は数々の金属学会賞や発明協会賞を受賞され、また長年にわたり母校や他大学で講師をつとめるなど、優秀な技術屋であった。

仕事の面では自分自身にも部下に対しても大へんきびしかったらしいが、平素は親分肌で人寄せを好み、他人の面倒を良くみたと聞く。一方また照れ屋で稚気もあり、家庭ではこよなく優しい夫、祖父だったようだ。小学生のころ健康優良児に選ばれたのが自慢の一つで相撲も強く、当時著名の横綱玉錦をもじった「ヘソニシキ」の四股名から、我々の間では「オベチヨ」と愛称されていた。つい先頃の四月、古手のOBの集まりをお膳立てしてくれて皆に感謝されたが、何か我々との附合いにもけじめをつけて逝ったように思えてならない。

数年前手術で入院していた際、御夫人の影響から洗礼を受けて晩年は安身立命

されたようだが、神の御加護か最期は誠に安らかだった由である。

斯く、一つの模範的な生き方を貫かれたヨゼフ・奥本君に、私は深い哀惜と敬愛の念を捧げて止まない。

平成三年十二月

海老原朗君を

偲ぶ

二十二回 桑田 孝

「海老原朗君

有名な海老原四兄弟の三男。兄弟四人共湘南サッカー部で活躍。

S17旧制湘南中学人学。次兄純氏と同じく、旧制水戸高・東大卒。その間二人共名センター・ハーフ、主将として活躍したことで有名。

S28王子製紙入社。平3専務。

性格明るくおおらかで、学生時代から「朗ちゃん」「朗チン」と呼ばれ人気あり。東大での岡野俊一郎君との親交は有名。入社した時から大いに将来を囑望されていたが、平3・7・17 61才にて逝去。誰れからも惜しまれている。

旧制中学というともう古い。海老原兄弟をご存知でない人も多いと思ひ、簡単に彼のの人となりを紹介したが、私と朗君とは小学校四年の時から友達であり、

湘南でも同じ組、サッカー部に入ったのも一緒、社会人になってからも一緒にクラブチームを作って蹴っていたし、サッカーだけでなく、泳ぎも、スキーも一緒だったので思い出はつきない。

その上、大学に入ってから二年上の八星さんに誘われ、湘南に入学した時最上級生でキャプテンだった次兄の純さんと麻雀をするようになり、それがスキーにゴルフへと発展したので海老原兄弟との縁は更に深くなった。

その純さんも昨年亡くなり、今度は又朗ちゃんが亡くなった。寂しい限りであり言葉も出ない。心から冥福を祈るばかりである。

台掌

輝く優勝

旧制中学OB大会

11月23日に行われた、全国旧制中学OB大会(6チーム参加)において、湘南中OBが4年振りに優勝した。今年から55歳以上が参加有資格者となり、湘南中OBは若手(?)の活躍が著しく、各試合、内容的には庄勝しての優勝であった。

試合結果

- 対府立五中OB 1対0
- 対高師附属中OB 1対0
- 対神戸一中OB 1対0

参加者

- 内田、八星、松本、磯崎、松浦、矢住、桑田、斉藤、川島、小田島、酒井、栗原

柳川、山本、塩川、中原、松本(好)、渡嶋

〔応援〕

常盤、安保、大埜、小熊(正)、藤田、田川 (敬称略)

〔祝勝会のお知らせ〕

日時 1月15日 午後3時半
場所 藤沢駅前 「角若松」
会費 五千円

91戦績回顧

ベガサスシニア監督

関根 和衛

大内から電話があった。「関根、欠席裁判だが監督に決まったよ、引き受けるか。」「決まったら引き受けざるを得ない、OKしかありませんね。」ということを受諾した。

考えて見ると今から三〇年前の一九六一年の大学生のとき投票用紙?の石塊でサッカー部のキャプテンに選出された状況と酷似している。双方ともチーム力は弱く大変なチームの責任者になってしまったものだと思つた。

若い三〇年前のチームは弱くても sunrise、それに引き換え我がシニアチームは sunset、sunrise のときは、神奈川県リーグ、関東リーグ(3部×7ブロック) 2勝1分7敗 11チーム中9位 得点5 (FW1・MF4) 失点27

ク)とも2位の好成绩でキャプテンの責任は辛うじて果した思い出がある。が sunset チームの平均年齢は平成3年4月1日現在、53才弱で戦力的には大巾ダウン及びこのチーム結成の主旨から、チーム及び自分にも余り多く望まず楽しいサッカーを實行することだけを念頭に入れた。

このチームの監督の主な任務は、試合当日の先発メンバーの編成及び選手交代で、これがなかなか難しく、参加人数及び個々人の体力等を十分加味して決定しなければならぬ。幸い参加率は登録メンバーの60%(14/15人)余りで、10試合を棄権せずにより切ることが出来ました。リーグの戦績は2勝1分7敗ですが私としては、このチームの現在の力では十分な成績だと思つています。メンバーの皆様の御協力に対して心からお礼申し上げます。反省するところは多々ありますが紙幅の都合上割愛します。

91湘南ベガサスシニアサッカーの戦績

4/28	0-2	平塚四十雀
5/12	0-5	早園FC
6/30	0-4	鎌倉四十雀
7/7	2-1	川崎四十雀A
7/21	0-2	南足柄四十雀
9/15	1-4	小田高四十雀
9/22	1-0	茅ヶ崎四十雀B
10/6	1-8	横浜OBサッカー
10/20	0-0	神奈川四十雀A
11/4	0-1	大和四十雀

91湘南ベガサス成績

- ◆第4回郡市四十雀サッカー大会
- 2/3 2-2 (PK敗) 南足柄四十雀
- ◆郡市四十雀サッカー大会(リーグ戦)
- 5/9 0-3 神奈川四十雀B
- 6/2 3-2 寒川四十雀
- 6/16 7-1 相模原四十雀
- 7/14 1-4 川崎四十雀B
- 7/28 0-2 横須賀四十雀
- 8/25 1-0 栄光学園OB
- 9/29 0-2 藤沢四十雀
- 10/6 1-3 横浜シニア
- 11/10 1-1 綾瀬四十雀
- 11/17 0-0 茅ヶ崎四十雀A

◆第1回古河市マスターザサッカー大会

- 11月23日
- 一回戦 5-0 鹿行四十雀(茨城)
- 二回戦 0-1 茅ヶ崎四十雀A
- 11月24日
- 交流戦 0-2 大宮植竹シニア(埼玉)
- 0-3 古河市荘年(茨城)

◆その他練習試合

- 4-2 IBM
 - 2-5 川崎四十雀
 - 2-3 小田高OB四十雀
- 以上18戦 5勝10敗3分(1PK負)

筋肉考

四十一回 植松 二郎

八年ほど前から、マラソンをはじめた。

きっかけは、「健康のために」という中年ランナーらしい理由ではなかった。少年サッカーである。

同期の相羽克治君が二人の息子さんの所属する少年サッカーチームの面倒をみていた。一度その練習を手伝わせてもらって、面白くなった。週一回、電車とバスを乗り継いで通い始める。子供たちとも仲よくなる。ところが、しばらくしてびっくりした。ボールの蹴り方などはそこそこに教えられても、まるで走れない。アルコールと夜更かしの日々が長かったから多少は覚悟していたけれど、こうまでひどいとは思わなかった。これは仲よくしてくれる子供たちに失礼だと思つた。そして、家のそばの道を走りはじめる。五百メートルでせいでいい。これはいかんとむきになる。週に一、二日だったのが三日になる。だんだん息があらなくなり、脚の筋肉も死滅したわけではなかったらしく、奥のほうに眠っていたやつが少しずつ蘇生してくるようだった。五キロを二十分そこで走れるようになる。こうなると面白くなって、週に三日ではなく、毎日走る。どんどんタイムが縮まる。ために近くにやる十キロレースに出てみようかと思う。で、気がついたら各地のレース行脚を始めていた。少年サッカーのほうは、いつのまにか遠のいてしまったのだからいい気なものである。

これまでに全国各地でおこなわれる四十二キロ余のフルマラソンに十五回出場

している。だいたい三時間で走る。市民ランナーとしては、けっこういい記録なのだ。平成元年（いや、まだ昭和六十四年）の元日、ほら、湘南が二十三年ぶりに全国大会へ出場したあの正月、江ノ島元日マラソン（十キロ）四十歳代の部で優勝し、キラキラ光るトロフィーまでもらった。母封の栄誉の年に、あれはあれでささやかな個人的栄誉だった。

現在も月平均三、四百キロ練習している。たばこはやめてしまったし、酒も、まあ飲むけれど深くはやらなくなった。仕事上、机にへばりつく時間が多いけれど、会社づとめではないので合間を見つけて走れる。スポーツというより、なんとなく修行という趣があって、そんな感じを楽しんでいるところもあるようだ。

今年になって、湘南ベガサスのお誘いを受けた。同期の伊通元康君が若手チームの主将をやるということもあって、参加させてもらうことになった。おかげで、なつかしい人にもたくさん会えた。まあ、ボールはうまく蹴れなくとも、これだけ走っているから、相手の攻撃をじゃまするぐらいはできるだろうと思っていたのだがやはり甘いようだ。まずおどろいたのは、ゲームをした翌日、からだのあちこちにかかりの筋肉痛。四十キロ走っても何ともないのに、この痛さになんだろうとあきれてしまった。

思えば当然のことなのだ。マラソンというものは、（練習でインターバルなどをやるにはやるが）三時間のあいだ、ひた

すら人間の体を前へ運ぶ競技。どれだけ静かに効率よく運ぶかを筋肉はおぼえるわけだ。サッカーはちがう。地面ではなく球を蹴る。跳躍する。急制動する。急転回する。つかう筋肉がまったくちがうのである。体を運ぶのではなく、得点を狩りたくないといけない。あたりまえのことだけど、そこに技術も妙味も集約しているのだ。上から下までイエローの、誇らしいユニフォームを着てゲームをしながらそんなことを思った。

マラソンは農耕系の競技で、サッカーは狩猟系の競技といった気がする。もちろん、どっちが上等という問題ではないけれど。

リーグ優勝を

目指して

四十二回 田部井 徹

昨年までプレーしていた藤沢四十雀をを辞めて、今期よりベガサスでボールを蹴り、サッカーを楽しんでいます。一度入会したクラブを辞めるのは、非常に抵抗感がありますが、幸い藤沢四十雀には湘南の先輩がいらして、その人たちの理解のもとにチームを替えさせて頂きました。

二年の間、外から見ていたベガサスは、メンバーがいつも揃っていて、攻守にバ

ランスがとれたとても素晴らしいチームという印象を持っていました。新しくメンバーになったからには、絶対リーグ優勝したいと、心秘かに思っていました。初戦からつまづき、終わって見ると戦績は、三勝五敗二分と不本意な結果でした。敗因を分析してみますと、やはり今年からチームを二に分けたせいとか、メンバー不足が大きく結果に影響しているようです。途中、七人、八人の試合もあり、相手チームに対して、大変失礼な思いをさせてしまいました。やはりリーグに登録した以上、最低限人数だけは揃えて、試合をやりたいと思います。

私の場合浦和で育ったせいもあり、小学四年の頃からサッカーを始め、現在に至っております。結婚後も学生時代と同様に、日曜日になるとボールを蹴りに出かけていますので、今ではすっかり習慣となり、家族もあきれ何とも言えないというのが実態です。

人それぞれ自分におけるサッカーの位置付けは異なると思いますが、四十才を過ぎてサッカーの試合に集まるということの中には、一つの共通点があると思います。それは皆、心の底からサッカーが好きだと言うことです。好きなサッカー、どうせやるなら勝ちたいと思います。それには多少メンバーの補強も必要となりますが、それ以上にチーム全員の意志統一が大切だと思います。来年こそ是非皆でリーグ優勝の喜びを味わいましょう。

湘南クラブ

六十三回 須藤 和重

昨年藤沢市サッカーリーグ二部において全勝優勝して、今年念願の一部昇格となった我が湘南OBの湘南クラブはメンバーの集まり具合が悪いにもかかわらず、現役時代に培った「湘南のサッカー」を発揮して頑張っています。大学生主体のメンバー構成で、戦前はみずみずしいゲーム展開を予想していました。しかし各々の選手達は学業その他のサッカー以外のことで忙しく、試合の時だけしか運動しない人が大部分なので、体力面で対戦相手に劣り、苦戦を強いられています。それでも皆、ホイッスルが鳴れば一生懸命にボールを追いかけて、仲間同士で声をかけ合い、ゴールを目指すことに一丸となっていています。久しぶりにボールに触れるということで、かえって新鮮な気持ちになれて、皆生き生きしてプレーしています。サッカーを自然と楽しんでいくということがみんなの光る瞳をみれば、この湘南クラブの活動の第一目標は達成できていると思います。一部残留という目標もありますが、せっかくなので、時間の合い間を縫って集まったのだから、全員が試合に出れるように、そしてボールを蹴るといふことを存分に楽しむことが重要だと思います。また久しぶりに会

った仲間との、互いの近況や懐かしい昔のことを話し合ったりすることも、この湘南クラブの活動が果たしている重要な役割だと思えます。これからもこの湘南クラブをみんなで存続させ、盛り上げて、代々の後輩達に受け継いでいってほしいと思います。そしてまずは今年の残り試合に全力で取り組んで、来年もまた一部で頑張りたいと思います。

現役報告

91〜92キャプテン
中園 真介

「君の青春時代はなんだい？」と聞かれたら、僕は真っ先に「サッカーです」と答えるでしょう。でもその後「でも僕の青春はサッカーだけではありません。」と答えるかもしれません。藤塚先生がよくおっしゃった言葉で、「君たちは、サッカー選手である前に湘南高校の学生なんだ。」というのがあります。僕がその前に書いた「サッカーだけではない」という言葉は、一見プロ意識が欠けていて、OBのみなさんには、「なんだい、これはいいい加減なチームだったんだな。」と思われるかもしれませんが、藤塚先生の言葉と合わせて考えますと、サッカーだけしかやらない某私立高校などと比べると、これが湘南なんだ、と思います。僕

らはサッカーの練習をこれだけやっていけるんだ、ということでも自信が持て、学校内での他の場面、クラス内のことや行事や委員会などに積極的に参加しました。今もクラス対抗サッカー大会がちょうど行われています。僕らの世代は『キャプテン翼世代』とも呼ばれ、そのサッカーアニメに刺激され、男なら必ず一度はサッカーに熱中したことがある、そういう連中を僕は堂々と引って張っています。僕らは、頂点を極めることが出来ませんでした。僕らは、それはこの方針が悪いわけではなく、僕らがまだまだ未熟だった、というところに尽きると思います。

高校受験の頃、テレビの中で活躍していた先輩が、練習を何度となく見に来てくれ、また、その他たくさんOBのみなさんの援助のもとで素晴らしい高校時代を送ることが出来ました。どうもありがとうございました。

◆試合結果

12/30	湘南	0-2	県相模原
	湘南	0-2	東農大三
1/13	湘南	1-3	県立川和
2/10	湘南	1-0	西浜
	湘南	1-0	藤嶺
	湘南	1-0	湘南通信
	湘南	1-0	湘南工科
	湘南	1-1	大清水

PK 5-4 〔関東大会二次予選〕

5/8	湘南	4-0	浦和
	湘南	0-1	向上
5/3	湘南	5-0	菅
	湘南	6-0	新栄
	湘南	1-0	小田原
	湘南	1-3	旭
8/8	湘南	1-0	城山
	湘南	3-0	白山
	湘南	0-1	桐蔭

《校舎改築について》

現役に対する、OB・OGの皆様よりのご支援ありがとうございます。今年度は、極立った戦績は残せませんでした。湘南サッカーは、現役達に脈々と受け継がれています。

さて、皆様も、新聞等でご存じかと思いますが、92〜93年度から、校舎の改築工事が始まる予定になっています。このことに伴ってグラウンドが、92年10月より使用出来なくなるようです。皆さんが、汗を流し、ボールを追い、友と語り合った、あのグラウンドが、多分96年まで使用出来ないようです。

そこで、想定される三つの問題について、皆様もお考え頂きたいと思えます。

一、グラウンドに建立されている、故岩淵先生を記念するシュート板、故香川校長を記念するベンチボール用ポストの取り扱いについて。

二、想い出深いグラウンドでサッカーが出来たのも、あと半年。そこで、例年、夏休みに行なわれるOB会で、たとえば「記念式典を行ない、グラウンドが使用出来ない約4年間に向けて、OB会の結束を図る」ということは出来ないでしょうか。

三、現役への支援を一層お願いしたい。何のスポーツでも、ホームグラウンドを持たないチームは、弱体化してゆくようです。しかし、湘南サッカーは、そうあってはならないと思えます。その為には、何としても、練習場・グラウンドの確保が第一なのです。OB・OGの皆様のパワーで、藤沢市および周辺の企業所有のグラウンド・施設が借用出来るように取り図って頂けないでしょうか。

校舎改築・グラウンド使用不可の時期のOBの皆様への御支援をよろしく願います。



平成3年度会計報告

(3年1月1日～3年12月31日)

収入	会費・寄附	975,000
	利子	978
	計	975,978

支出	現役寄附	300,000
	蹴球祭	150,000
	7月OB会	20,000
	遠征(OB)	80,000
	印刷費	120,000
	通信・事務費	156,000
	計	826,000

繰越し	横浜銀行	3,244
(通帳)	郵便局	146,734
	計	149,978

<特別会計預り ¥500,000 岩渕様より>

事務局 便り



「岩渕先輩」の御意志による寄付について
 平成三年六月、故岩渕二郎先輩の夫人より、安保副会長へ寄付の御申し出の連絡が入りました。
 OB会への寄付の主旨は次のようなも

のでした。
 生前岩渕先輩はその遺言として夫人に湘南サッカーへの援助を話されてきました。本年故人の十三回忌の年にあたり、夫人におかれましてはこの遺志を生かすべく心を砕かれていたものです。
 安保副会長より連絡を受けた事務局の相羽・山口が六月二十二日岩渕宅にお伺いし、金50万円の寄付を受け取りました。当日、夫人はお足の悪いにもかかわらず我々を迎えられ、岩渕先輩の遺志を伝えられ、また故人のサッカーにかかわる遺品・記念品の保持に関してOB会に依頼されました。我々もOB会を代表し、故人ならびに遺志を継がれた夫人に深く感

追伸

OB会報第10号発行に際し、たくさんのお寄せをいただきありがとうございます。また、発行が遅れましたことをおわび申し上げます。

以上

謝するとともに、その意志を生かすことを約束し帰途につきました。
 事務局より次のことを提案します。
 一、現役に岩渕先輩の遺志を伝える寄付(ユニフォーム等)を行う。
 一、御夫妻の意志を記念し残す事業を行う。



＊蹴球祭・総会のお知らせ＊

多数の御参加を！

1月15日(祝)於 湘南高校

9:30～10:20	総会(大教室)
10:30～11:00	対レディス交流試合 ウォーミングアップ を兼ねて55才以上
11:00～12:40	対 慶応OB戦 55才上チーム 45才上チーム
12:40～14:30	ペガサス・藤沢四十雀 ボールクラブ、交流試合
14:30～	若手OB・現役交流戦

【 お 願 い 】

■ 4年度会費納入の件

3年度は皆様のご協力ありがとうございました。本年もよろしく願いいたします。

- 社会人 5,000円
- 学 生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、ご欠席の方はお手数ですが同封用紙にてお振り込み下さるようお願い申し上げます。尚、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金

口座番号 019166

湘南高校サッカー部OB会

安保隆文 TEL 0467-22-1794

■ 住所変更等の連絡先

住所変更等がございましたら下記のOB会事務局までご連絡下さい。

〒241 藤沢市鶴沼神明5-6

県立湘南高等学校内

サッカー部OB会 藤塚久雄

TEL 0466-26-4151